

令和5年 結核登録者の状況

1 新登録患者数及び罹患率

(表1)新登録患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5
新登録結核患者数	23	24	18	17	24
罹患率	6.9	7.2	5.5	5.2	7.8
喀痰塗沫陽性肺結核患者数	8	12	8	7	8
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	2.4	3.6	2.4	2.2	2.5
潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	3	6	8	12	10



(表1より) 令和5年新登録結核患者数は24人、潜在性結核感染症患者数は10人であった。

CHECK

(表2)男女別結核患者数(人)

区 分	性 別	R1	R2	R3	R4	R5
新登録結核患者	男 性	16	13	10	10	10
	女 性	7	11	8	7	14
喀痰塗沫陽性結核患者	男 性	4	8	4	4	3
	女 性	4	4	4	3	5
潜在性結核感染症	男 性	2	3	3	3	5
	女 性	1	3	5	9	5



(表2より) 令和5年新登録結核患者性別比率は男性10人(41.7%)、女性14人(58.3%)とやや女性が多い。

CHECK

(表3)年齢別結核患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

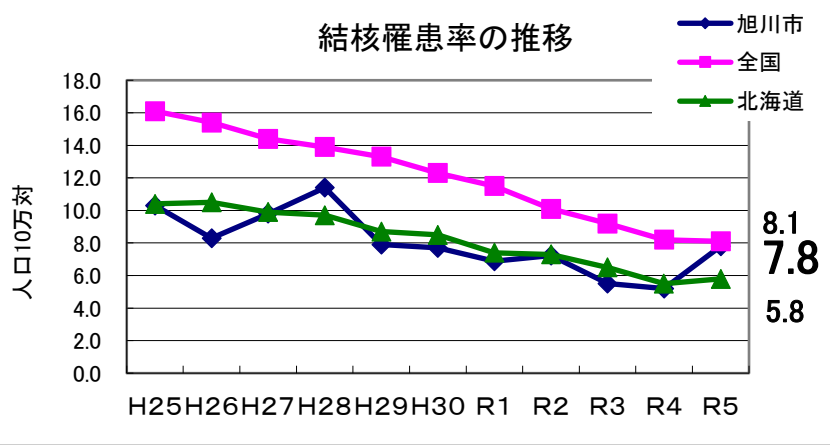
患者種別 年齢区分	新登録結核患者		喀痰塗沫陽性結核患者		潜在性結核感染症患者	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
9歳以下	-	-	-	-	-	-
10歳代	-	-	-	-	-	-
20歳代	-	-	-	-	1	3.9
30歳代	-	-	-	-	1	3.4
40歳代	1	2.4	-	-	2	4.7
50歳代	-	-	-	-	1	2.2
60歳代	1	2.3	-	-	3	7.0
70歳代	10	19.5	3	5.8	-	-
80歳以上	12	30.6	5	12.8	2	5.1
計	24	7.8	8	2.5	10	3.1



(表3より) 新登録結核患者の年齢は、80歳以上が最も多く、年齢別罹患率においても80歳以上が最も高い。40歳代の1名については、医療従事者であった。年齢別割合では、70歳代42%、80歳以上50%と70歳以上が全体の約9割を占めている。喀痰塗沫陽性結核患者は80歳代で最も多い。

CHECK

(図1) 結核罹患率(人口10万対)年次推移

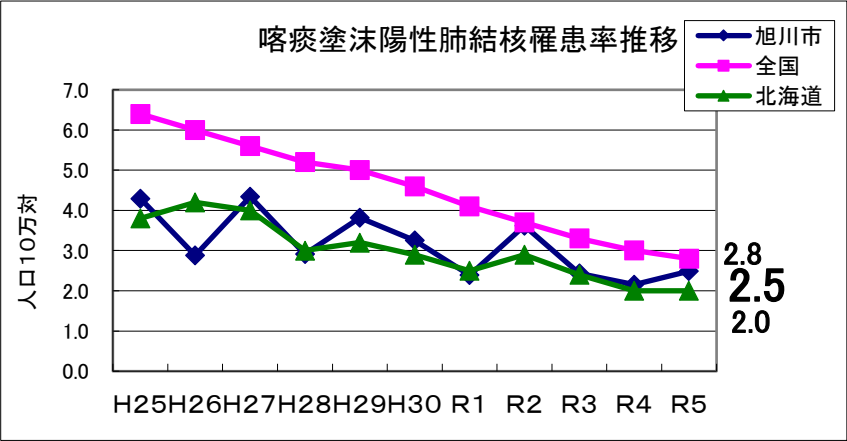


(図1より)

令和5年は令和3年の5.5、令和4年の5.2に比べ増加しており、平成30年の7.7と同水準である。

令和5年は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行した年でもあり、コロナ禍による受診控えが影響している可能性も考えられる。しかし国、道ではそういった影響を受けている様子はないことから本市における罹患率の推移は今後も注意深く見ていく必要がある。

(図2) 喀痰塗抹陽性肺結核罹患率(人口10万対)年次推移



(図2より)
喀痰塗抹陽性肺結核罹患率は2.5で、令和4年の2.2よりも高い値となった。
全道の2.0より高値であったものの、全国と比較すると低い値であった。
※喀痰塗抹陽性肺結核とは、患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人への感染源となりやすい。

2 結核登録者数及び有病率

(表4) 結核登録者数(人)及び有病率(人口10万対)

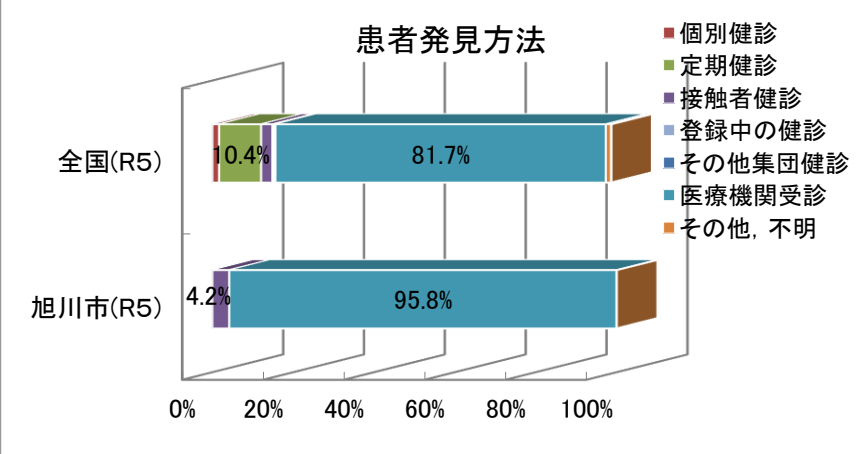
区 分	R1	R2	R3	R4	R5
結核登録者数	62	58	47	40	54
活動性全結核患者数	13	17	11	9	16
旭川市の有病率	3.9	5.1	3.0	2.8	5.0
全国の有病率	7.7	6.8	6.2	5.4	5.5



(表4より) 年末総登録者数は54人と、令和4年より14人増加した。うち、活動性全結核患者数は16人であり、令和4年より7人増加した。このため、有病率も、前年から2.2増加し、5.0であった。全国と比較するといずれの年も全国を下回っている。

3 新登録患者結核病類

(図3) 患者発見方法



(図3より)
新登録結核患者24人の発見方法は、全国と同様に医療機関での発見が23人(95.8%)と最も多い。

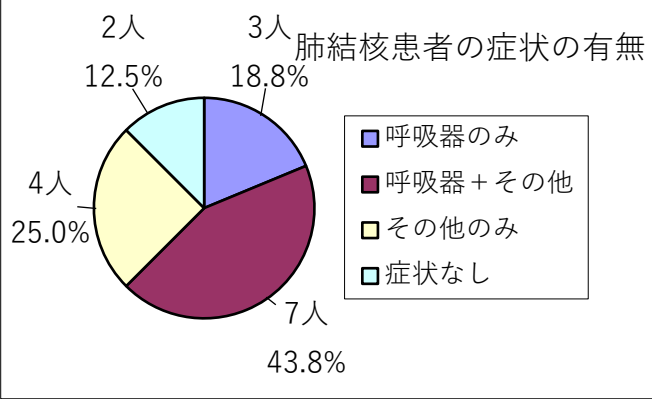
(表5) 結核患者分類 ※新登録患者24人。うち重複診断4名。うち1名3疾患重複している。

肺 外 結 核	病 名	人 数(人)	割 合
肺 外 結 核	肺結核	16	57.1%
	粟粒結核	3	10.7%
	結核性胸膜炎	4	14.3%
	結核性腹膜炎	1	3.6%
	結核性髄膜炎	1	3.6%
	他のリンパ節結核	2	7.1%
	皮膚結核	1	3.6%
合 計(延)		28	



(表5より)
重複診断を含む新登録結核患者延べ28人の結核病類においては、肺結核16人(57.1%)であった。肺外結核は粟粒結核が3人(10.7%)、結核性胸膜炎が4人(14.3%)、他のリンパ節結核が2人(7.1%)、結核性腹膜炎、結核性髄膜炎、皮膚結核がそれぞれ1人(3.6%)であった。

(図4) 新登録肺結核患者の症状の有無



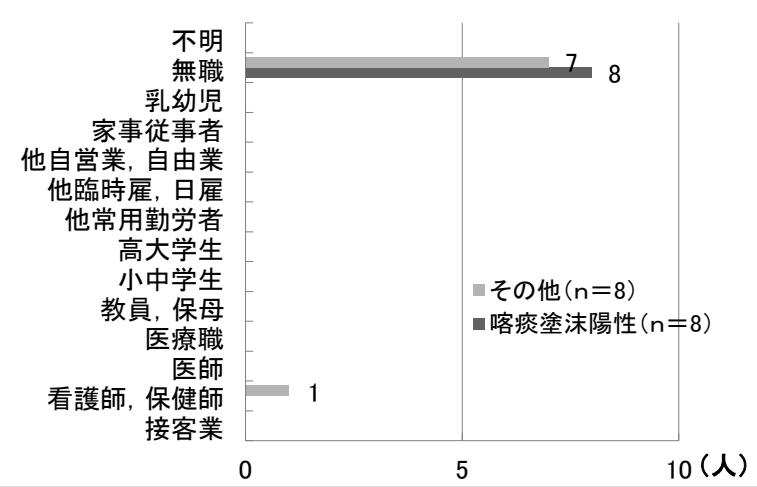
(図4より)
新登録肺結核患者16人うち14人(87.6%)
が有症状であり、呼吸器症状があったのは
10人(62.6%)であった。

4 新登録有症状肺結核患者の受診・診断・発見の遅れ(表6) (人)

	R1	R2	R3	R4	R5
総数	14	16	9	12	14
受診の遅れ	1	2	2	1	1
診断の遅れ	2	1	3	7	4
発見の遅れ	0	0	2	3	1

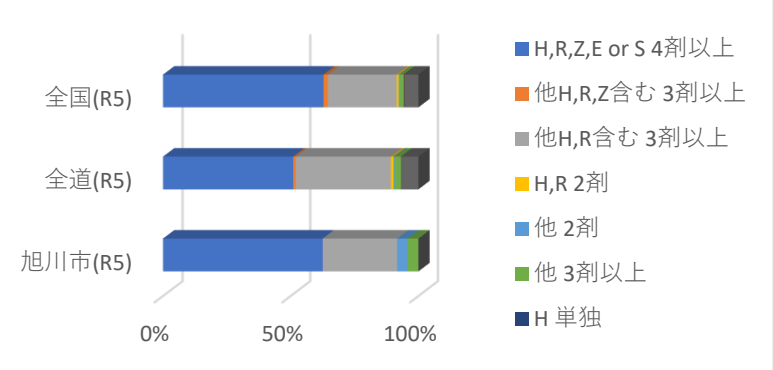
(表6より) 有症状の肺結核患者14人のうち、発病から初診までの期間が2か月以上(受診の遅れ)の者は1人(7.1%)、初診から診断までの期間が1か月以上(診断の遅れ)の者は4人(28.6%)、発病から診断までの期間が3か月以上(発見の遅れ)の者は1人(7.1%)となっている。また、発病時期が不明であった者は1人いた。全国との比較では、初診から診断までの期間が1か月以上(診断の遅れ)の者のみ全国より高い割合となっている。
※参考:R5 全国 受診の遅れ 19.9% 診断の遅れ 22.5% 発見の遅れ 21.3%

5 新登録肺結核患者 登録時職業(図5)



(図5より)
新登録肺結核患者16人の登録時職業
は無職が15人(93.8%)と最も多く、
無職の15人は65歳以上の高齢者で
あった。

6 新登録結核患者化療内容(図6)



(図6より)
新登録結核患者24人の化療内容は
H,R,Z,E or S4剤以上使用していた者が
15人(62.5%)、H,R含む3剤以上使用
していた者が7人(29.2%)であった。
全国と比べると、4剤以上治療の者
の割合は概ね同割合で、道より割合
が高かった。

H:イソニアジド R:リファンピシン Z:ピラジナミド E:エタンブトール S:ストレプトマイシン

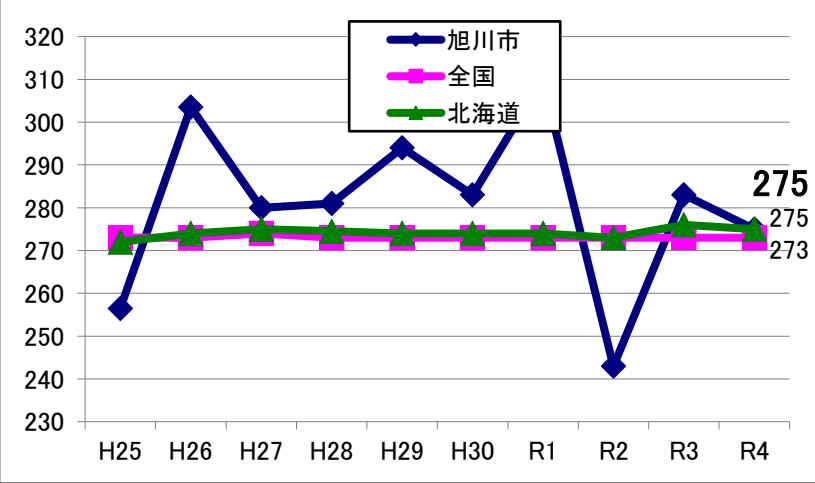
7 薬剤感受性試験結果(表7)

	人数(人)	割合
結核菌培養陽性患者	13	
薬剤感受性試験実施者	13	100.0%
INH耐性	0	0.0%
RFP耐性	0	0.0%
SM耐性	0	0.0%
EB耐性	0	0.0%
PZA耐性	0	0.0%
HRSE全てに感受性	13	100.0%
薬剤感受性未実施者	0	0.0%



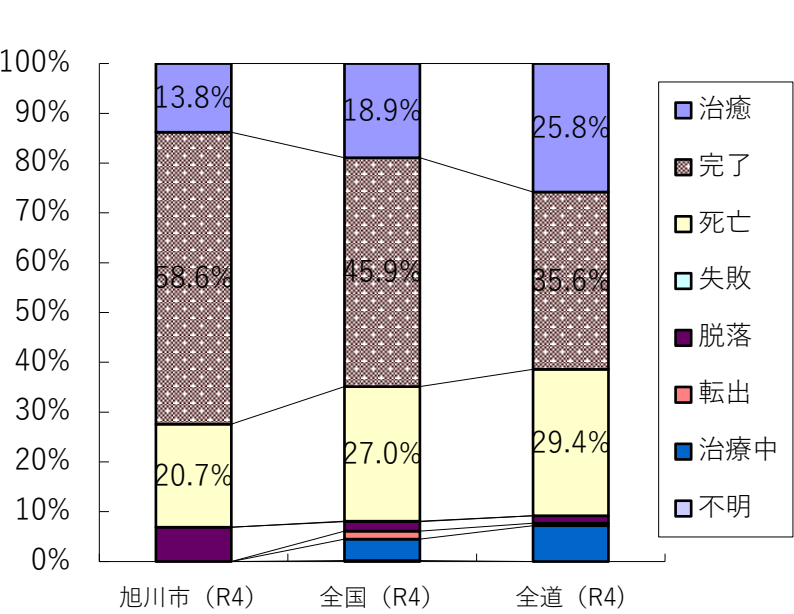
(表7より)
新登録肺結核菌培養陽性患者13人のうち全員(100%)が薬剤感受性試験を実施し、全員がHRSE全てに感受性があった。

8 令和4年全結核治療完遂継続者治療期間中央値(図7)



(図7より)
令和4年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は275日であった。R4年は全国、全道と同程度の値になっている。

9 令和4年新登録活動性結核患者治療成績(図8)



(図8より)
令和4年新登録活動性結核患者29人の治療成績において、治癒は4人(13.8%), 完了は17人(58.6%)で、治療成功率は72.4%であった。
また、死亡が6人(20.7%), 脱落2人(6.9%)で、脱落理由は1人はEBアレルギー及び体調不良によるもの(医師判断)、1人は主治医の治療期間の認識の誤りによるものであった。治療期間については定期的な医療状況の確認及び標準治療の周知に努める必要がある。